

ほめちぎる教習所 いいね!

伊勢、入校者大幅増でV字回復

少子化で自動車運転免許の取得人口が減り、若者の車離れが進むご時世にあって、入校者を大幅に増やしている自動車教習所が三重県伊勢市にある。南部自動車学校(加藤光一代表)は「ほめちぎる指導」で、V字回復を遂げた。免許合宿に参加する生徒への「おもてなし」も好評だ。

同校は1962年に設立された。71〜74年に生まれた第2次ベビーブーム世代が免許取得の適齢期だったころ、年間2千人ほどが普通車の免許を取得するために入校。それが2009年には1310人にまで落ち込んだが、一転して18年は過去最高となる2573人が入校した。



ほめちぎる方針の南部自動車学校 三重県伊勢市小俣町元町

合宿で「おもてなし」名所観光や豪華料理

らしかり飛ばしていた場面でも、まずはほめる。そして少し間を置いてから「でもね……」。ミスの原因を易しい言葉で伝えるように改めた。

ほめる検定取得

57人いる指導員は全員、一般社団法人「日本ほめる達人協会」の「ほめ達人」検定3級を持っている。八田宜彦業務課長は「生徒に指摘する自身の本質は従来と全く変わらない。ただ、伝え方を変えるだけで、生徒たちは気持ちよく教習を受けられるようになり、前向きな質問も出るようになった」と話す。

主に県外からの生徒を受け入れる「免許合宿」にも工夫を凝らす。一般的な合宿は、2週間ほどの期間中にめいっばい講義と実習を詰め込む。だが、「せっかく伊勢という知名度のある観光地に来てくれたのだから、楽しんでもらおう」と、「おもてなし」の要素を盛り込んだ。数年前から合宿期間中に丸1日、伊勢神宮などの名所を観光する時間を設ける。

外国人向けも力

この冬は「おもてなし」をさらに向上させ、12月3〜21日に入校して合宿に参加する生徒については、これまでの観光に加え、伊勢エビや松阪牛など、豪華料理が振る舞われる。

地方は少子化、都市部は若者の車離れがそれぞれ進み、自動車教習所の経営環境は年々、厳しくなっている。全日本指定自動車教習所協会連合会によると、90年に1475カ所あった連合会加盟の教習所は、18年には1262カ所まで減った。内閣府の18年の交通安全全日書によると、25〜64歳の男性は免許取得率が90%を超えているが、20〜24歳は80・0%。女性も35〜49歳は90%を超すが、20〜24歳は71・9%と低い。

このため、南部自動車学校は外国人向けの教習にも力を入れている。2年前からは在留中国人向けの免許合宿を始めた。ベトナム人向けの教習も検討中だという。神崎和博管理・営業部長は「様々な工夫をすることで若者の車離れを食い止める、免許の取得意識向上につなげることが役目だと考えている」と話す。

(安田琢典)



上 免許取得のための合宿期間中に三重県伊勢市内を観光する生徒たち
下 合宿期間中に提供される伊勢エビや松阪牛など、三重県産食材をふんだんに使った料理 伊勢市南部自動車学校提供